

平成 29 年度第 3 回富津市創生会議 会議録 (要旨)

| | |
|----------------|---|
| 1 会議の名称 | 平成 29 年度第 3 回富津市創生会議 |
| 2 開催日時 | 平成 30 年 3 月 28 日 (水) 午前 9 時 00 分～午前 11 時 20 分 |
| 3 開催場所 | 富津市役所 5 階 502・503 会議室 |
| 4 審議等事項 | 総合戦略実行計画 (平成 30 年度当初予算版) について |
| 5 出席者名 | 富津市創生会議委員 (12 名) 稲村 重夫、櫛田 直也、小泉 敏、坂田 慶子、 佐々木 ゆき江、鈴木 裕士、鈴木 眞廣、武次 治幸、 永田 武憲、並木 邦明、橋村 透、早見 秀一 事務局 (8 名) 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、 総務部長 白石 久雄、総務部参与 池本 幸司、 企画課長 重城 祐、企画課企画係長 田内 友臣、 企画課主任主事 鶴岡 隆樹、企画課主任主事 牧野 圭吾 事業担当課 (41 名) |
| 6 公開又は非公開の別 | 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 |
| 7 非公開の理由 | 富津市情報公開条例第 23 条第 号に該当 (理由) |
| 8 傍聴人数 | 0 人 (定員 20 人) |
| 9 所管課 | 総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223 |
| 10 会議録 (発言の内容) | 別紙のとおり |

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

平成 年 月 日

富津市創生会議 会議録署名人

会議録署名人

平成 29 年度第 3 回富津市創生会議 会議録（要旨）

| 発言者 | 発言内容 |
|-------|--|
| | <p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>会議録の確定について 会長の指名した委員による承認を採用 会議録署名人は下記のとおり 永田委員、稲村委員</p> |
| 武次会長 | <p>議題に入る前に、会議の趣旨及び議事進行について、事務局から説明を求める。</p> |
| 事務局 | <p>本日の会議の趣旨は、平成 29 年度決算見込み、平成 30 年度当初予算等を反映した、資料 2 「富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（平成 30 年度当初予算版）」における各事業の平成 31 年度の目標値に対する達成度、取組状況についてご意見等をいただくものである。</p> <p>資料 1 「平成 30 年度施政方針」について説明。 資料 2 「総合戦略実行計画（平成 30 年度当初予算版）」について説明。</p> <p>議論の主な観点を事業実施内容の細部ではなく、代案、K P I 達成に向けた取組の改善方策等に重点を置き議論していただきたい。</p> <p>以上で説明を終了する。</p> |
| 武次会長 | <p>事務局の説明に対し、質問はあるか。</p> |
| 委員 | <p>特に無し。</p> |
| | <p>4 議題 議題（1）総合戦略実行計画（平成 30 年度当初予算版）について</p> |
| 武次会長 | <p>それではまず、基本目標 1 について質問、意見はあるか。</p> |
| 佐々木委員 | <p>資料 2 の 13 ページの「市民が誇れる市の顔づくり関連事業補助金」について、補助金の補助期間が 3 年間となっているが、どのような考えで 3 年間としたのか。</p> <p>また、それ以降についてはどのように考えているのか。</p> |
| 市民課 | <p>市としては、特色ある地域づくり活動の「立ち上げ」に対しての補助としていることから、補助期間終了後は自主的な活動としてお願いすることとしている。</p> |

| | |
|---------|--|
| 佐々木委員 | <p>今年度の会議において、市は、自主防災組織の組織率 100%を目指すべきと考える旨の話があったが、今後、大地震等により自主防災組織の活動中にけが等、何かあった場合にはどのような補償があるのか。</p> |
| 防災安全課 | <p>資料 2 の 13 ページの「市民活動災害補償制度」により、自主防災組織の活動中のけが等を補償する。しかし、自主防災組織の無い地域住民が活動中に災害に遭われた場合には、本制度の補償対象外となるため、是非とも自主防災組織の立ち上げにご協力いただきたい。</p> |
| 鈴木（眞）委員 | <p>地域としても、特に担い手の高齢化を痛感している。そのため、若者の出番や地域への参加・参画意識についても目を向けていかなければならないと思う。</p> <p>また、自主防災について、私自身、私立保育園を運営しており、3日分の食料等の備蓄を行い災害等に備えているが、公的な避難場所への支援とは別に、4日目以降の保育実施についての支援については、どのように考えているのか。</p> |
| 企画課 | <p>総合戦略そのものの目標が「人口減少社会になっても市民が幸せを感じられるまちづくり」であることから、地域・民間・市民ができること等を組み込み、それについてインセンティブになるような様々な事業に取り組んでいる。今後も地域・民間とともに、行政も一緒に取り組んでいく。</p> |
| 防災安全課 | <p>指定避難所は 44 箇所、自主避難所は区の集会所等になる。</p> <p>保育については、おおむね 4 日目以降から応急保育として保育をしていただくように富津市地域防災計画にも記載している。災害時、公立・私立問わず、保育できる体制を確保していただき、施設側の協力により保育をお願いしたいと考えている。</p> |
| 鈴木（眞）委員 | <p>支援物資等が公的避難所までは届くが、自主防災組織等に行き渡らないといった報道もあることから、市としても十分な検討を行っていただきたい。</p> |
| 武次会長 | <p>それでは次に、基本目標 2 について質問、意見はあるか。</p> |
| 稲村委員 | <p>資料 2 の 28 ページの公共交通機関について、今年度アフィックにおいて就職説明会を実施した中で、参加者から JR での移動が不便であるとの意見があった。ダイヤ見直しの施策を盛り込んでもらいたい。</p> |
| 企画課 | <p>昨年 3 月のダイヤ改正に伴い、昼間の乗り継ぎが必要になったことは事実だが、朝・晩の時間帯の変更は無いのも事実である。そのため、いつ、どの時間のダイヤが不便なのか、というところまで具体的に確認していく必要があると考える。</p> |

| | |
|---------|--|
| 永田委員 | <p>バスは乗る人が少ないから補助しなければいけない。その結果、補助金も上がっている。大型バスだけを見るとこのような状況となっているが、人口減少下では便利なコミュニティバスなどに切り替えるなど、方法を考え直していかなければと思うがどうか。</p> |
| 企画課 | <p>パブリックコメントにおいても、委員と同様の意見があった。それも踏まえて、地域の需要、乗る人のための交通網というものを掲げている。</p> <p>また、参考までに、全国的な傾向としては、大型バスとタクシーであっても、経費はおおむね人件費となっている。車両の耐用年数等についての違いはあるが、小型にしたからといって必ずしも経費の削減にはならないのも事実である。市が委託したコミュニティバスとバス路線の経費は、ほとんど変わらないというデータが出ている。</p> |
| 鈴木（眞）委員 | <p>富津市は、東京から1時間という立地だが、テレビを見ていると南房総市や館山市にばかり関心が向けられているように感じる。資料2の30ページの「富津市のあるべき将来像」とはどのようなものか、市長の考えを伺いたい。</p> |
| 市長 | <p>富津市の魅力を知ってもらい、広く知らしめていただき、若者を刺激して移住をしてもらうということが、今後の目指すべき将来像であると考える。富津市の魅力は私たちが知っているものだけではないということを確認しなければならない。富津市に来ている人達の情報をしっかりと捉え、自分たちも富津市の魅力に自信を持つことが重要であるということ意識し、今後の事業に取り組んでいきたい。</p> |
| 鈴木（眞）委員 | <p>地元の若者も富津市の地元の魅力に気付いていない。今のような話をどんどん若者に宣伝して欲しい。</p> <p>資料2の35ページの火葬場について、万が一新しい火葬場が事故等により使用できなくなった場合、バックアップのようなものはあるのか。</p> |
| 環境保全課 | <p>防災面については十分考慮して設計している。一部で現在使用している火葬場を残した方がよいとの意見もあったが、広域のスケールメリットを活かした継続的な営業を検討しているのでご理解いただきたい。</p> |
| 鈴木（眞）委員 | <p>想定外の事が起こることもあるので、バックアップ体制については危惧している。</p> |
| 環境保全課 | <p>バックアップ体制の検討については、地域連携の中で今後も検討の余地があると考えてるので、継続して検討していきたい。</p> |
| 並木委員 | <p>広域連携化については、水道、火葬場以外の生活関連においても重要であると考えてるので、今後は調査費等についても検討する必要があると思う。また、成果目標を捉える上では、安定供給も大切だが、広域連携による効率化の観点も重要であると考えてる。</p> |

| | |
|---------|--|
| 企画課 | <p>水道事業の広域化については、4市及び千葉県との話がまとまっている内容を掲載しているが、その他の公共施設等についても、長期的かつ安定的な運営の観点からは広域化を検討していくことが考えられるので、できることから、また、まとまることから検討していきたい。</p> <p>また、K P Iについても、表記方法等を考慮していきたい。</p> |
| 鈴木（裕）委員 | <p>広域連携としての交通の利便性について、浅間山バスストップの設置によりJ Rや市内への交通網との連携はどのようになるのか、現状を知りたい。</p> <p>また、要望として、コミュニティバス等の交通施策や観光においても、近隣市との連携により効率化やコスト削減にもつながるかもしれないので実施を検討していただけたらと思う。</p> |
| 企画課 | <p>浅間山バスストップ設置によるJ Rや市内への二次交通については、市内事業者及び市民から聞いた結果、それほどニーズが無いということであるため、カーシェアリング等の導入を検討する予定である。</p> <p>また、既存の高速バスが何便になるか等も、利用者のニーズで決まるものなので、バス事業者とも調整しながら進めていきたい。</p> |
| 武次会長 | <p>ここで休憩を挟み、基本目標3の議論に移る。</p> <p>(休 憩)</p> |
| 武次会長 | <p>会議を再開する。基本目標3について質問、意見はあるか。</p> |
| 鈴木（眞）委員 | <p>資料2の48ページに結婚支援事業とあるが、一生懸命縁組しても、結婚後に市外に転出してしまう。このような状況を市はどのように捉えているか。</p> |
| 市長 | <p>利便性等については、近隣市に勝てないかもしれないが、行政として、子育て世代に対して、これがあるから富津市に住もうと思ってもらえるような施策をどんどん行う。その一例が、第三子保育料無料化である。また、子育て世代の方から意見をもらいながら、喜んでもらえるような取組を行っていく。</p> |
| 鈴木（眞）委員 | <p>若い世代が地域の中で参加する場面が増えれば出会いの場も増えるし、ここで住むことの楽しさも生まれてくると思う。皆で知恵を出し合いながら、イベント等を考えていければと思う。</p> |
| 早見委員 | <p>資料2の49ページのふれあいスポーツフェスタの参加者数についての成果目標だが、直近3箇年が減少傾向にある中で平成30年度以降は3,000人と増加している。減少の要因を理解した上で具体的な施策が無いと目標人数の達成にはつながらないと思うが。</p> |

| | |
|---------|--|
| 生涯学習課 | ふれあいスポーツフェスタ以外の文化祭や図書の貸し出しについても減少傾向にある。このふれあいスポーツフェスタ事業は、結婚を希望する人の縁を結ぶという施策の中で考えると、出会いの場の機会創出につながるとも考えている。参加者数等の具体的な実施内容については、実行委員会により検討を進めていくが、参加者数はスタッフの人数も含んでおり、その人数の増加も検討している。 |
| 榎田委員 | ふれあいスポーツフェスタについて、市外・県外からの参加者を募り交流行事にすることは可能か。 |
| 生涯学習課 | 検討したい。 |
| 榎田委員 | 資料2の66ページの地域交流支援センターとはどのようなものか。 |
| 子育て支援課 | 未就園児とその親に、育児相談や仲間づくりの場として利用してもらおう。また、病後児保育の機能も併せているセンターである。 |
| 鈴木（裕）委員 | 金谷は移住者が多い。移住する理由は、私達が思うところと違う魅力を見いだしていると感じている。子育てについても、富津市での子育てのイメージを確立して発信していくことで、移住を希望される方等をもっと引きつけることができると思う。 |
| 鈴木（眞）委員 | 資料2の65ページのワークショップとは、具体的にどのようなことをするのか。 |
| 子育て支援課 | 「親子集いの場 なかよし」を利用し、子育て中の親子が集まりたいと思う場所について意見交換し、検討する。 |
| 鈴木（眞）委員 | 民間の保育所までそのような話題が下りてきていない。情報共有、連携をお願いしたい。 資料2の66ページについて、現在、富津地区において受入ができない状況の施設もある。これは保育者不足が背景にあると思うが、要望としてこの解消についても検討をしていただきたい。 資料2の67ページについて、子供自身が「こども110番の家」を知っているのか。また、その家に実際に飛び込んでいけるような関係づくりはできているのか。 |
| 学校教育課 | 学校長の協力により「駆け込み訓練」の実施や周知を行っている。 また、「こども110番の家」については、協力いただける方を募っているが増えていないので、今後も呼びかけをしていきたい。 |
| 鈴木（眞）委員 | 「駆け込み訓練」とは、どのような訓練か。 |
| 教育センター | 富津警察署、セブンイレブンジャパンの協力により、飯野小学校の児 |

| | |
|---------|--|
| 鈴木（眞）委員 | <p>童が訓練した。設定としては、路上で不審者が出た事を想定し、その際の大声の出し方や逃げ込み方等を実際に訓練した。また、セブンイレブン店舗への逃げ込み方や店員への報告の仕方等を訓練した。この訓練には、区長や飯野地区の見守り隊も参加していただいた。</p> <p>子供と地域のつながりが弱くなっているため、地域で子供に関心を持ってもらえるように、このような事業を通して関わり方を作っていただければと思う。</p> |
| 永田委員 | <p>私も「駆け込み訓練」に参加したが、非常に良いことだと思う。しかし、「こども 110 番の家」が認知されていないとも感じた。今後増やしていくためにも、PRをして欲しい。また、増やしていくためには区長の協力も必要だと思う。</p> |
| 武次会長 | <p>「こども 110 番の家」の住人が不在の場合はどのような対応となるのか。</p> |
| 永田委員 | <p>隣家に代わってもらうこと等が必要ではないかと思う。必要なことは、数を増やすことだと思うので、検討をお願いします。</p> |
| 武次会長 | <p>それでは次に、基本目標 4 について質問、意見はあるか。</p> |
| 鈴木（裕）委員 | <p>資料 2 の 94 ページの鋸山の文化遺産登録について、実行計画では、関係者・有識者等の検討会を平成 31 年度としているが、遺跡調査は大分進み資料もそろってきていると思うので、開催年度を早められないか。</p> |
| 生涯学習課 | <p>前倒しで平成 30 年度に 1 度開催できればと考えている。</p> |
| 橋村委員 | <p>資料 2 の 76 ページの廃校等を活用した企業誘致について、当行としても、他市において学校関係の利活用の実績がある。平成 31 年度の跡地利用検討委員会（仮）における議論の情報等をいただければ、様々な企業の情報などを情報提供等できる。</p> <p>資料 2 の 82 ページの地元製品の直売所設置については新規事業であり、平成 30 年度の事業内容のみの記載となっていて、民間活力により特産物直売所の設置を促進するとしているが、民間活力をどの程度想定をしているのか。</p> |
| 農林水産課 | <p>生産・製造者側からの要望としての直売所である一方、市としても魅力発信につながると考えている。今後、市としては、施設整備、運営等をできる限り民間にやっていただきたいと考えるが、全国的な事例等を集め検討していきたい。</p> |
| 櫛田委員 | <p>資料 2 の 94 ページの鋸山の文化遺産登録については、国内外問わず重要なコンテンツであるので、是非推進してもらいたい。</p> |

| | |
|---------|--|
| 生涯学習課 | <p>また、個人的に鋸山の文化遺産登録のPRをしていきたいが、どの程度の情報を提供してよいか。</p> <p>鋸山は、外国人が訪れたい場所でも第2位という報道もあり、脚光を浴びているのも感じているが、交通網やトイレ・休憩所などの受入体制整備が人気に追いついていないとも感じている。早急に検討を進めていきたいと考えている。</p> |
| 武次会長 | <p>この件については、庁内にプロジェクトチームがあったらよいのではと思う。</p> |
| 並木委員 | <p>資料2の74ページの企業誘致奨励制度について、現在ではほとんどの新富地区の工業用地は埋まったと聞いている。今後は、それらの企業が出ていかないようにするためにも、機器の更新費等についての助成等を追加する等、現行制度の改正も検討した方がよいと思う。</p> <p>また、新富工場協議会でも周知等は協力したいと考えている。</p> |
| 鈴木（裕）委員 | <p>資料2の94ページの鋸山の文化遺産登録について、観光客が増えており、整備は課題であると感じる。市だけではなく、国、千葉県を巻き込んだサポートについても確認していく必要があると思うので、市としても様々な方策の検討をお願いしたい。</p> |
| 鈴木（眞）委員 | <p>資料2の88ページの耕作放棄地について、太陽光パネルの設置が乱立しているが、農地として保全しながら市民も活用できるようになればと思う。多様性という観点で市はどのように考えているのか。</p> |
| 農林水産課 | <p>耕作放棄地が増えると農作物の生産機能低下は当然起き、それと同時に生活環境の低下も招いてしまう。まずは、農業者に農地の維持をお願いするが、従事者の高齢化や担い手不足も深刻である。そのため、担い手を支援し、その方に集積集約をお願いしたいと考えている。</p> <p>また同時に、市外から移り住んだ方等が小規模の農地でも利用できるように、農業委員会に対して規制緩和の要望を検討しています。</p> |
| 櫛田委員 | <p>資料2の74ページの工業用地への企業誘致にも関係するが、注目を集めるためにも目立つイベントを開催したいのだが申請窓口はどこになるのか。</p> |
| 商工観光課 | <p>新富地区の埋立地に関しては、千葉県の企業土地管理局土地分譲課が窓口となり、その他の遊休地については土地所有者に確認することになる。イベント等の相談については市の商工観光課へお願いしたい。</p> |
| 武次会長 | <p>基本目標ごとの議論はここまでとする。</p> <p>次に、全体を通しての質問、意見はあるか。</p> |

| | |
|---------------|--|
| <p>橿田委員</p> | <p>資料2の66ページの地域交流支援センターの設置の背景とは。また、利用の際に料金は取るのか、市外・県外の方は利用可能なのか、建物以外の運営のためのソフトコンテンツはどのようなものなのか。</p> |
| <p>子育て支援課</p> | <p>天羽地区の方が既存の「あおほり子育てサロン」や「もうひとつのお家」を利用するには地理的にも不便であるとの声があり、地域でも担い手を探していたが見つからず、公設とした。設置場所については、既存の「天羽老人憩の家」を用途変更して利用する。利用料金は無料、市外の方も利用できる。運営上のソフトコンテンツについては、今後、「親子集いの場 なかよし」等を活用し、ニーズを吸い上げる。また、地域を取り込んだ支援策となるように調整していく。</p> |
| <p>橿田委員</p> | <p>資料2の32ページのスポーツ施設、公園利用について、利用状況を見ると、空きがある施設が多いことから、県外の方へのPRが必要だと感じる。</p> <p>また、利用方法等についても一緒に考えていきたいが、誰に相談すればよいのか。</p> |
| <p>都市政策課</p> | <p>県外へのPRについては、施設利用振興公社ホームページや市のホームページもあり、特に野球場の利用については県外の方にも非常に人気がある。現在も商業施設にパンフレットを置くなどしているが、周知等について拡大できることがあれば施設利用振興公社と検討していきたい。</p> <p>また、ふれあい公園の利用方法等については、施設利用振興公社に確認をお願いしたい。</p> |
| <p>橿田委員</p> | <p>管理事務所に行くと管理するだけなので何もできないと言われてしまう。県外では定期的な利用を検討される方もいるため、年間を通しての様々な企画を一緒に考えていけるような連携の仕組みづくりをお願いしたい。</p> |
| <p>都市計画課</p> | <p>現在の指定管理委託が平成30年度までとなっていて、平成31年度からは新たな指定管理者を選定する。選定については直接指定ではなく、事業仕分けの意見等から公募による選定を検討していて、その中で運用面を重視していきたい。</p> |
| <p>橿田委員</p> | <p>資料2の11ページの富津埋立記念館の利用者数について、県外へのPRをすればもっと利用者が伸びる魅力あるコンテンツだと思う。プロモーションの仕方に問題があると思うが、県外への出前講座実施の検討や民間事業者との連携等の考えがあるのか。</p> |
| <p>生涯学習課</p> | <p>人員の関係で現状でも他課の学芸員資格を有する者に出前講座や古墳等の案内に協力してもらっている状況である。積極的なPRはできていないのが現状である。</p> |

| | |
|--------------|--|
| <p>橿田委員</p> | <p>資料2の10ページ及び40ページの広報について、事業内容がほぼ同じであるが、資料2の40ページの「新旧住民間の交流促進」として具体的にどのような意味合いで事業を考えたのか。また、10ページの「自分のくらす地域を好きになる」との違いはどのようなことなのか。</p> <p>また、10ページのフェイスブックの活用については、既存の内容も良いと思うが、市政の進行を確認する手段として、総合戦略の事業の進捗をフェイスブックにおいて確認等ができればよいと思うがどうか。</p> |
| <p>秘書広報課</p> | <p>「新旧住民間の交流促進」について、現在のところ具体的なものはない。しかし、フェイスブックについては当初、地域の再発見を主に掲載していたが、現在は市内の様々な事業を掲載し、富津市の魅力発信に努めている。</p> <p>また、例えば浅間山バスストップ設置の進捗状況のようなものについて、要望があれば積極的に掲載していきたいと考える。このような市の情報を市外の方が見て魅力を感じていただきたいとも考えるので、積極的に掲載していきたいと考える。</p> |
| <p>武次会長</p> | <p>以上をもって議題（1）を終了する。 事務局から何かあるか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>特に無し。</p> <p>議題（2） その他</p> |
| <p>武次会長</p> | <p>続いて、議題（2）その他について事務局から何かあるか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>特に無し。</p> |
| <p>武次会長</p> | <p>それでは、以上をもって平成29年度第3回富津市創生会議を終了する。 最後に、市から何かあるか。</p> |
| <p>小泉副市長</p> | <p>委員の皆様の任期中の会議は、今回をもちまして最後となります。平成28年5月から本日まで、創生会議において、総合戦略の実行のため様々なご意見等をいただき、また、会議当日だけではなく、その準備にもお時間を割いていただき、ありがとうございました。</p> <p>今後も、市の最重要課題である年少人口減少抑制に向け、総合戦略の着実な実行に取り組んでいくので、引き続き、ご協力をお願いします。</p> <p>(終了時刻 午前11時20分)</p> |

以上